



みつはし

三橋さぶろう

議会活動報告

救急感謝カード

9月8日(土)に船橋市民文化ホールで開かれた、第30回市民とともに考える救急医療シンポジウムに参加してまいりました。30年以上前から船橋市医師会と医療センター、消防局や自治会連合協議会など様々な方が協力し合って、『ドクターカーの導入』、『船橋まちなかAEDステーション事業』など、船橋市の救急医療体制が築き上げられたことを改めて認識いたしました。こうした救急医療体制が構築された結果、船橋市では目撃者がいる心停止の救命率は、全国でもトップクラスだとシンポジウムで報告されておりました。

傷病者を助けるためには、医師や看護師などの医療機関で働く方だけでは命を守ることはできません。救急現場に居合わせた人(バイスタンダー)が119番通報と救命処置(心肺蘇生法、止血、AEDの使用)することが重要です。2004年に一般市民がAED(自動体外式除細動器)を使用することが認められてから、一般の人が救命処置することの重要性が、年々、広く認知されるようになりました。船橋市では2013年からAEDを約640台設置していますが、昨年度末までに39回ほど救急現場に持ち出さ活用されています。AEDを使用しなくても救急隊到着までに (うら面へ)

三橋さぶろう プロフィール

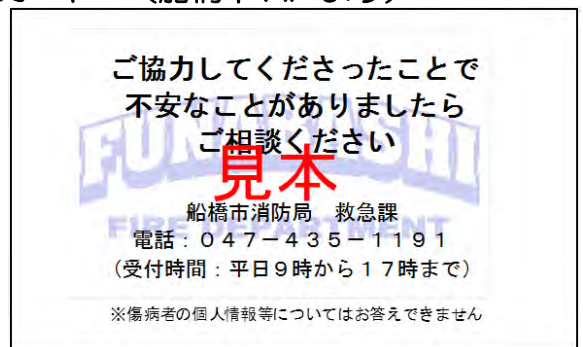
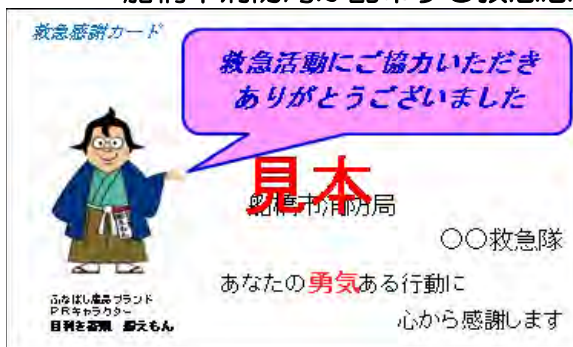
- 1978年 長野県木島平生まれ(40歳)
- 2002年 中央大学商学部卒業
株式会社カネボウ
江東区健康スポーツ公社
- 2008年 衆議院議員 野田佳彦秘書
- 2011年 衆議院議員 若井康彦公設秘書
- 2015年 船橋市議会議員選挙 当選
・健康福祉委員会 ・会派 民主連合
- 特 技: クロスカントリースキー
1998年長野オリンピックボランティアスタッフ
2002年ソルトレイクシティ・パリンピック日本代表コーチ
- 家族:妻、息子(5歳)、娘(4か月)

(表面から)

応急手当を行ってくださる方もいます。一般の方が傷病人を救護することが広まるのは大変良いことだと思います。しかし、医療関係者でない一般市民が救護活動することは容易ではありません。勇気を出して応急救護を行った方の中には傷病者の命を任されるという重責から、自分がとった行動が正しかったか？ もっとやった方が良かったことはなかった？ 傷病者のその後が気になるなど不安を感じストレスとなる方もいます。

このようなことから私、三橋さぶろうは、船橋市議会平成30年第1回定例会において、救急現場で救護活動を行った方に対し、救急隊員がお礼の言葉と共に、もしも不安やストレスを抱えてしまった場合は相談ができる連絡先が書かれたカードを渡す取り組みができないかと質問いたしました。その結果、救急の日である9月9日より船橋市消防局では、心肺蘇生法、止血、救急活動等に協力して下さった方に『救急感謝カード』を配布する事業がスタートしました。もし傷病人に遭遇したら勇気を出して応急手当をお願いいたします。応急手当を行ったことで悪意や重大な過失がない限り責任を問われることはありません。

船橋市消防局が配布する救急感謝カード (船橋市HPより)



三橋さぶろう市議会報告会

日時：平成30年11月17日(土) 10:00~12:00
場所：三橋さぶろう事務所 (駐車場はありません)
1時間ほど議会活動報告。その後、質問や要望をお聞きし意見交換させていただきます。
お気軽にお立ち寄りください。途中からの参加も可能です。

ご意見やご要望をお寄せください。

〒274-0063 船橋市習志野台4-10-12 (新京成線習志野駅から徒歩4分)

電話：047-402-2810 FAX：050-3488-3190

E-mail: funabashi@mituhashisaburo.jp

HP: <http://mituhashisaburo.jp>

三橋さぶろう まで

事務所にお越しの場合は、あらかじめご連絡いただくと助かります。